平成30年度

病害虫発生予察情報　第2号

注意報第2号

北海道病害虫防除所　平成 30 年4月 11 日
http://www.agri.hro.or.jp/boujosho/
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

りんごの黒星病が早発・多発の恐れ！
開花直前からの薬剤散布で一次伝染を抑えましょう！

平成 29 年は全道でりんごの黒星病による被害の発生が認められました。そのため、越冬した感染源も多いと推測されます。今後の気象予報から、一次伝染源となる子のう胞子の飛散が早まると予想されるため、特に注意が必要です。

本病は春季に飛散する子のう胞子が一次伝染源となり、その後葉などにできた病斑部から分生子が飛散し、二次伝染します。そのため、一次伝染を抑えることが重要です。開花直前から落花期が重点防除時期です。また、重点防除時期以降の薬剤散布が手薄になることで、後期感染や果実感染による被害が認められる場合があります。そのため、重点防除時期の薬剤散布はもちろんですが、これ以降についても園地での発生状況や天候の推移に注意して、追加防除を検討してください。

１．発生地域　　全道

２．予想される発生期　　早

３．予想される発生量　　多

４．注意報発令の根拠

１）前年における本病の発生量が多かったため、枝や葉に形成された病斑で越冬した感染源も多いと推測される。

２）一次伝染源となる子のう胞子の飛散開始には、消雪日からの積算気温が影響すると考えられている。本年は３月の平均気温が高く、多くの地域で融雪は早まっているものと予想される。平成 30 年４月５日札幌管区気象台発表の１か月予報では、向こう１か月の平均気温は高いと予報されており、りんごの開花は早まると予想される。また、病原菌の子のう胞子の飛散も早まると予想される。

５．防除対策

１）本病の重点防除時期は、開花直前から落花 10～20 日後までの期間である。子のう胞子の飛散開始が早いと予想されるため、散布開始が遅れないように注意する。

２）薬剤の散布間隔や回数が適切であっても、散布水量が不足した場合や、防除機の切り返し地点などの散布ムラが発生した場所において、本病の発生が認められた事例があることから、薬剤散布にあたっては、適切な水量で丁寧に散布を行う。

３）重点防除時期以降も果実感染、後期感染の恐れがあるので、天候の推移や発生状況に注意し、必要に応じて追加防除を実施する。発生園では、防除間隔を 10 日以上あけないよう注意する。

４）チオファネートメチル剤に対する耐性菌の発生が全道各地で認められているため、薬剤の選択に注意する。

５）道外ではＤＭＩ剤およびＱｏＩ剤に対する耐性菌の出現が確認されている。道内においてこれらの薬剤の感受性低下事例はまだ確認されていないものの、同一系統薬剤の連用は避ける。

付記１

北海道地方　　１か月予報

（４月７日から５月６日までの天候見通し）

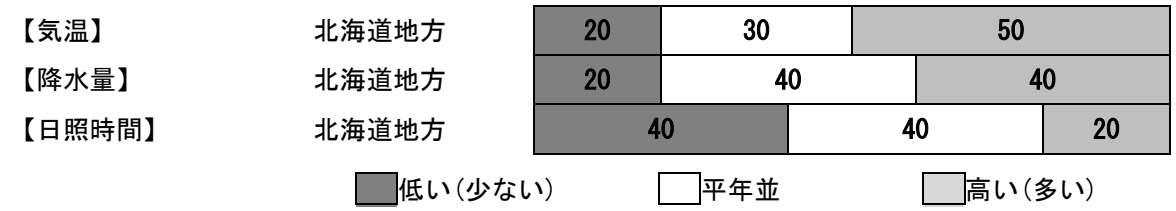
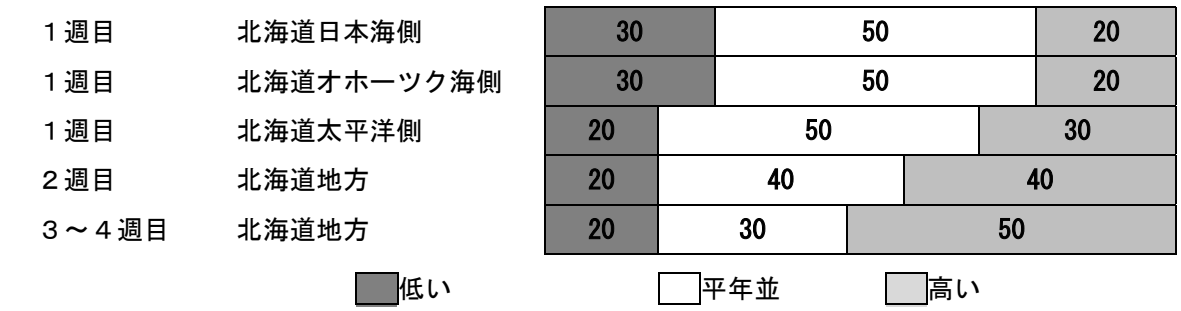
平成 30 年４月５日
札幌管区気象台発表

＜予想される向こう１か月の気候＞

向こう１か月の平均気温は、高い確率５０％です。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

週別の気温は、１週目は、平年並の確率５０％です。２週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。３～４週目は、高い確率５０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



＜気温経過の各階級の確率（％）＞